

《眼科臨床エキスパート》 知っておきたい神経眼科診療

吉村長久，後藤 浩，谷原秀信 シリーズ編集 三村 治，谷原秀信 編

このたび，医学書院から《眼科臨床エキスパート》『知っておきたい神経眼科診療』が上梓された。本書の特徴としては以下の四つが挙げられる。

第一に，一般の眼科臨床医がやや難解と感じ敬遠しがちな「神経眼科」という領域を，非常にわかりやすく，しかも興味深く読めるように企画されている点である。編集を担当された三村治教授，谷原秀信教授の企画力の素晴らしさは言うまでもないが，実際に執筆されている先生方は，現在の各領域で最もアクティブに活躍されている先生方であり，全員が編者の意図をよく理解し，同じコンセプトを共有しながら熱意を持って執筆されていることが，ひしひしと伝わってくる。各論では，われわれが日常臨床でしばしば遭遇する疾患から，比較的稀だが重要な疾患まで，神経眼科領域におけるほぼ全ての疾患が網羅されている。

第二に，画像をふんだんに使用して，視覚的に印象に残りやすい構成になっている点である。最近の日本神経眼科学会雑誌の論文や同学会の演題を見ても感じるのだが，従来のMRIやCTといった画像以外に，最近は光干渉断層計（OCT）が日常臨床で使用される頻度が激増している。その影響もあり，神経眼科と緑内障や網膜疾患との垣根も従来に比較して格段に低くなってきており，その他いろいろな領域とオーバーラップする内容も多くなってきている。神経眼科を専門にしていない眼科医でも，とっつきやすい書き方がされているので，読者にとっては非常にありがたい教科書と言える。また，各画像のクオリティが非常に高いのも特筆すべき点である。

第三に各論では，「一般眼科医へのアドバイス」と

いう項目を設けて，一般眼科医が日常臨床において潜在的な神経眼科疾患を見逃さないポイントを明記している点である。この内容はどれも非常に重要で，日常臨床に役立つこと請け合いである。このコーナーを読むことで，日常臨床で何気なく通りすぎていく症例の中から，重要な神経眼科疾患が数多く見つかることを期待したい。

最後に，「Topics」という項目で，最新のホットな話題を提供している点である。これらの内容も非常に興味深く，学会のシンポジウムに出てくるような内容を教科書で学べることは非常にありがたい。今まで治療法がなかった疾患に対する新治療の可能性や，新たな診断法などが，コンパクトにまとめられているので，とても勉強になる。

上記のように本書を読むことで，一般眼科医が神経眼科疾患をより身近に感じられるようになることは間違いなく，その結果日本の眼科臨床レベルが向上するものと確信している。特に若い世代の先生方にはぜひ本書を活用していただき，今後，神経眼科を専門にする先生がどんどん出てきてほしいと願っている。現在のわが国の眼科はやや領域に偏りが見られるのも事実であり，本書がその突破口となるものと期待される。最後に本書を企画，執筆された多くの先生方の熱意に心から敬意を表したい。

大阪医大教授・眼科学
池田彦彦

B5 頁400 2016年4月
定価：本体17,000円＋税
[ISBN978-4-260-02518-8] 医学書院刊